

黒田24騎小傳(9)

母里(毛利)太兵衛友信

生没年 : 1556~1615 年
位置付 : 大譜代 (八虎の一人)
禄 高 : 1 万 8 千石
別 名 : 万助、但馬

戦国争乱の時代、「天下の豪傑」と讃えられた二人の黒田藩武将が、前述の後藤又兵衛と今回の母里太兵衛で、「酒は飲め飲め～」の黒田節の主人公となった事跡の人物である。

本姓を「曾我」と称し、代々播磨国妻鹿村の豪士であった。幼名は万助、黒田官兵衛に仕える折、名門の母方の姓である「母里」を名乗り、母里太兵衛友信と称した。妻は大友宗麟の娘。

1578 年、荒木村重に土牢に幽閉された黒田官兵衛を、1 年後に有岡城が落城した時、栗山利安と共に救出する。その後官兵衛に従って、中国・四国を転戦、九州平定でも活躍し、官兵衛の豊前入国時には6千石を拝領する。文禄・慶長の役には、長政に従って従軍、関ヶ原の戦いでは、如水に従って豊後で義兄 大友義統を降伏させるなど、戦功は数知れず、勇猛な将として名を轟かせた。

長政の筑前入国時には、福岡六端城の一つ高取城の城代として、1万8千石を拝領するが、後藤又兵衛が脱藩した後、現嘉麻市の大隈城(益富城)に移る。

「日の本一の槍」を飲みとったいきさつは、黒田藩の碩学 貝原益軒がまとめた「黒田家臣伝」に次のように記載されている。

「伏見にて左衛門大夫(福島正則)より.....是の大盃にて酒をのまば何にても其方望みの物を引出物にせんと申しかば太兵衛内々かの大身の罍(やり)を望みに思ひければよき折節と思ひ其の座上にかかりて有けるを見やりて、あの罍を賜はらば此の大盃にてのみ申さんといふ。左衛門大夫酒に酔ってかの罍の秘蔵成し事を忘れ、しからば此の罍を与ふべし。其の大盃にてのみ候へと云はれしかば太兵衛其の大盃にて酒を受けのんで彼の罍を取って帰りける云々」(益軒全集巻五)

現在、この名槍「日本号」は、福岡市博物館に展示してある。

この有名な故事は、後日多くの黒田家臣に謡われ、筑前今様の詩型となり、起・承・転・結の短文詩として筑前国歌となる。

姓が「母里」なのか「毛利」なのかについては、次のように言われている。1606年、将軍秀忠は江戸城石垣の修復を三大名に命じる。長政は黒田藩の総奉行として母里太兵衛を派遣。見事に修復工事をなしとげた功により、将軍家より感謝状を賜るが、その名宛が「毛利」と間違って記されていた。しかし、将軍家より賜った姓として、そのまま「毛利」と名乗ることにした。

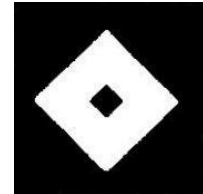
徳川家安定の兆が定まる元和元年(1615年)6月6日、病のため、60歳でこの世を去る。

嘉麻市大隈町の麟翁寺のお墓に葬られている。



母里太兵衛の博多人形(ふくおかフィナンシャルグループ1階に展示)

家紋



釘抜



旧母里太兵衛邸長屋門(福岡城跡)

母里太兵衛屋敷は、今の天神2丁目、野村証券の地にあったが、昭和40年、現在地に移築された。(福岡県指定文化財)



母里太兵衛銅像(JR博多駅)